



# 紡ぐ(藤垂園コートから 繋がる絆)

広島工業大学高等学校  
教諭 橋 國 浩 之

## 藤垂園コート

この施設は、1976(昭和51)年12月佐伯郡五日市町(現佐伯区)藤垂園の宮島街道沿いにオープンしたテニスコートです。ここには3面のクレーコートとクラブハウスがあり(総面積2,414.29m<sup>2</sup>)、学園教職員及び学生・生徒の体力増進また文化活動の場を提供することはもとより、地域住民からの学校グラウンド開放の要望に応じて建設されたものです。30年たった今も学園内外のテニス愛好家に広く利用され、学園教職員テニス大会を初めとして多くの大会に使用され続けてきた由緒あるテニスコートです。



## テニス部にとっての聖地

本学園の高校生が藤垂園コートを使用するようになって20年が経ちます。1986年、工大広島(現広島なぎさ)高校に硬式テニス同好会が発足しました。当初は学校近辺のコートなどを転々としながら活動を続けていました。そのような3年間の同好会としての活動を終えようとした頃、学園・学校関係者のご尽力により、藤垂園コートを練習に使用できるチャンスが訪れました。校地からは遠く、

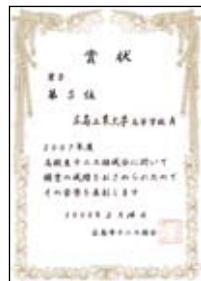
移動の不便さは残りますが、部に昇格できる喜びや、子どもたちをテニスに集中させてやれる環境に胸躍らされたことは忘れられません。

その日から、このコートには多くの高校生が育てられ、そして巣立っていきました。文字通り、藤垂園コートには高校生の「汗と涙と青春」がいっぱい詰まっています。

## 祝!団体戦初入賞

広島工大高校(以下本校)へ赴任し、前任校と同様にテニス部顧問を命ぜられました。そして赴任後初めての公式戦(平成17年・第58回県高校総体)において本校テニス部史上初の団体戦入賞(第5位)を果たすことができました。ノーシードからの勝ち上がりであり、まさに大会の「台風の目」的存在となりました。

大会終了後の表彰式において、賞状を受け取る生徒の誇らしげな表情は忘れられません。チームで手に入れたものの大きさを改めて痛感した瞬間でした。この部史上初の団体戦入賞が本校におけるテニス部づくりの大きなきっかけとなりました。



## 広島工大高校テニス部

テニスは典型的な個人スポーツです。技術のみを向上させたいのであれば、その欲求を満たしてくれるテニススクールなどはたくさんあります。よって、中学からのキャリアを持った選手は部活動に物足りなさを感じてしまうことがあります。しかし、その選手がチームから浮遊した状態では学校の部活動の存在意義はありません。高校からテニスを始めた生徒との間にある技量と思考の溝を埋めていくことが部をつくるポイントになります。そのキーワードとなるのが“チーム意識”であります。トップ選手が自らの高みまで他の選手を引っ張り上げようとする心を創造しなければなりません。

本校テニス部の伝統は“草むしり”にあります。新生生の練習はコート周辺の草むしりから始まります。大量の新生生が入って来たときはむしる草が一本もなくなったという逸話も聞いたことがあります。この草むしりは当然キャリアを持った新生生にも課されます。この作業が後に「同じ釜の飯を食べた」という“チーム意識”を生み出す大きな一因ともなっていました。

## MSCとテニス部

鶴学園50周年記念事業の一環としてメモリアルスポーツセンター(以下MSC)が建設されました。本校待望の体育館であり、みんな日々できあがっていくMSCに胸躍らせていました。しかし、テニス部部員は少し複雑な心境でした。なぜならMSCの建設用地は硬式テニス部のテニスコートだったからです。その後、テニス

部は確定した練習コートを持たない状態での活動を強いられることになりました。当初、練習は使用料が無料の広島サンプラザのコートを借りていましたが、使用は抽選の結果決まることもあって、練習プランを立てることさえ難しい現実がありました。しかし、校長先生のバックアップにより五日市テニスクラブの屋内コートを週一回借りられるようになり、天候にも左右されず練習に専念できるようになったことは非常にありがたいことでした。

## チームとして

先に述べたように、地域のテニスクラブではできないこと、すなわち、学校の部活動の意義は“チーム意識”の存在です。これが、部活動のモチベーションを高める答えになります。団体戦でもらった初めての賞状はこれを確信に変えてくれました。あの団体戦以降、練習用Tシャツまでおそろいになりました。

「チームとして手に入れることができるものを追い求める。」これを、テニス部の目標としています。現有の戦力でできることは何か?を分析することに意識を集中しています。抽象的な大目標をたてることは簡単です。しかし、我々の目線はもっと手前にあります。“チーム内での自分の役割を考える”ことが大切な



工大高校庭球部  
一心不乱

学校法人鶴学園  
藤垂園テニスコート

## 再び藤垂園から

昨年9月、広島なぎさ高校テニス部は新校舎竣工に伴い、新校地内のテニスコートに移転していきました。そして、本校テニス部が藤垂園コートを利用できるようになったのです。コート改修も行って頂き、環境は格段に改善されました。日々練習する生徒の表情も明るい。

今年は、本校テニス部の再出発の年です。“チームの工大高校”“団体戦の工大高校”と呼ばれるようなテニス部を創りたい。

毎年正月に、工大広島(広島なぎさ)高校テニス部OBの新年初打ち会をおこなっています。今年は本校テニス部OBにも声をかけました。藤垂園コートで育てられた人たちが糸を紡ぐように繋がっていく、そんな関係を作ってゆきたい。本学園サッカー部のような学校の枠を越えたつながりが目標です。そして、現在藤垂園で育つ生徒にこそ、このような繋がりを紡ぐ中心にいて欲しい。



「いつか鶴学園学校別対抗戦テニス大会を開催したいですね!」という生徒の思いは藤垂園コートが生み出したものに他ならない。藤垂園コートで生まれた伝統の上に我々の新しい伝統を紡いでいきたい。